高校生 新聞作り研修

3年ぶり 14校80人「復興」テーマに

県内高校の新聞部で作る県高校新聞連盟は12日、矢吹町内のホテルで、東日本大震災の影響で中止していた新聞作成の研修会を3年ぶりに開いた。「福島の復興」をテーマに国や県などの担当者に取材した。模擬新聞を作り、研修会最終日の13日に批評し合う。

新聞連盟は震災前、1泊2日の研修会を年2回開催していた。震災後は半日の日程で、連盟全体の活動を報告する総会を開く程度にとどまっていた。

研修会には14校から約80人の生徒が参加。県と福島復興局の担当者に取材し、今なお14万人以上が県内外で避難生活を続けていることや、住民帰還に向けた支援策などについて説明を受けた。放射線防護の専門家で県立医科大の神谷研二副学長からは、放射能と放射線の違いなどを学んだ。

その後、5、6人ずつの14班に分かれ、「なぜ放射線を研究しようと思ったのか」「福島の未来を担う私たちに望むことは何か」などと質問した。尚志高2年の佐藤若奈さん(16)は「復興は私たちに直接関わるテーマ。自分たちの問題として捉えなければいけないと思った」と話した。

新聞連盟代表顧問の酒井全・光南高教諭(46)は「新聞連盟の復活と福島県の復興のため研修会を準備した。高校生が復興を話し合うことに意味がある」と語った。

復興をテーマに取材する高校生（12日、矢吹町で）